



中部電力

浜岡原子力発電所
基準津波の策定のうち
プレート間地震の津波評価について
(コメント回答) データ集

2022年7月15日

目次

1	検討波源モデルAの詳細	
1-1	東海地域の大すべり域が2箇所の場合のパラメータスタディモデルの設定 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース	3
2	検討波源モデルDの詳細	
2-1	東海地域の大すべり域が2箇所の場合のパラメータスタディモデルの設定 敷地に近い大すべり域を10kmずつ移動させたケース	14
3	日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細	
3-1	日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa、RT150s)のパラメータスタディモデルの設定	25

・検討波源モデルA、B-1のパラメータスタディモデルの設定については、第717回審査会合 机上配布資料に記載

・検討波源モデルB-2、Cおよび遠州灘沿岸域の痕跡再現モデル、南海トラフ広域の痕跡再現モデルについては、第981回審査会合 机上配布資料に記載

・検討波源モデルDおよび日本海溝の津波評価手法モデル②、③については、第1020回審査会合 机上配布資料に記載

1 検討波源モデルAの詳細

1-1 東海地域の大すべり域が2箇所の場合のパラメータスタディモデルの設定

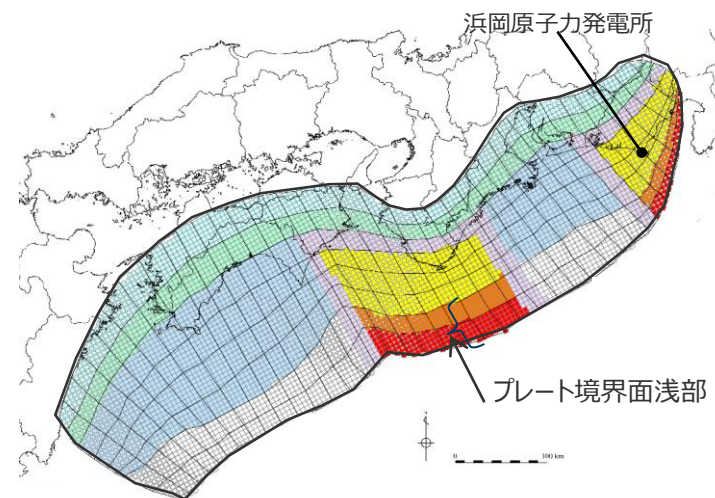
1 検討波源モデルAの詳細

1-1 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

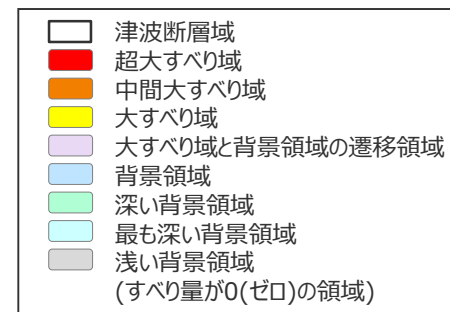
断層パラメータ（敷地に近い大すべり域の位置：東へ40km、大すべり域間の距離：130km）

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.1×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力低下量 (MPa) ※1	3.0
	平均すべり量 (m) ※2	12.0
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		19.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
	平均すべり量 (m) ※3	27.8
	最大すべり量 (m)	40.8



検討波源モデルA（プレート境界面浅部）



※1 スケーリング則の対象とした平均応力低下量

※2 すべり量が0mでない領域の断層面積(123,601km²)に基づき算出

※3 すべり量が0mでない領域の断層面積(13,877km²)に基づき算出

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1-1 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ（敷地に近い大すべり域の位置：東へ40km、大すべり域間の距離：150km）

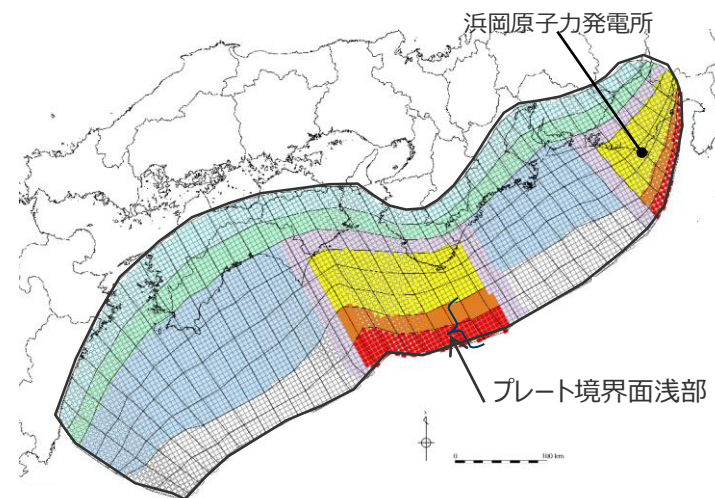
断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.1×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa) ※1	3.0
	平均すべり量 (m) ※2	12.1
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		20.4
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
	平均すべり量 (m) ※3	28.4
	最大すべり量 (m)	40.8

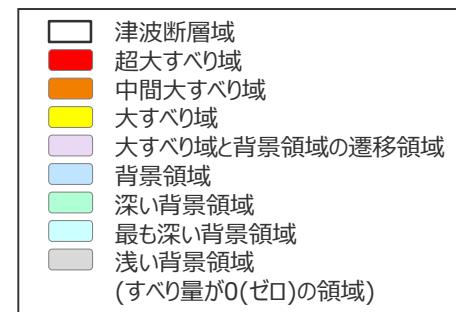
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0mでない領域の断層面積(123,800km²)に基づき算出

※3 すべり量が0mでない領域の断層面積(14,075km²)に基づき算出



検討波源モデルA（プレート境界面浅部）



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1-1 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ（敷地に近い大すべり域の位置：東へ30km、大すべり域間の距離：120km）

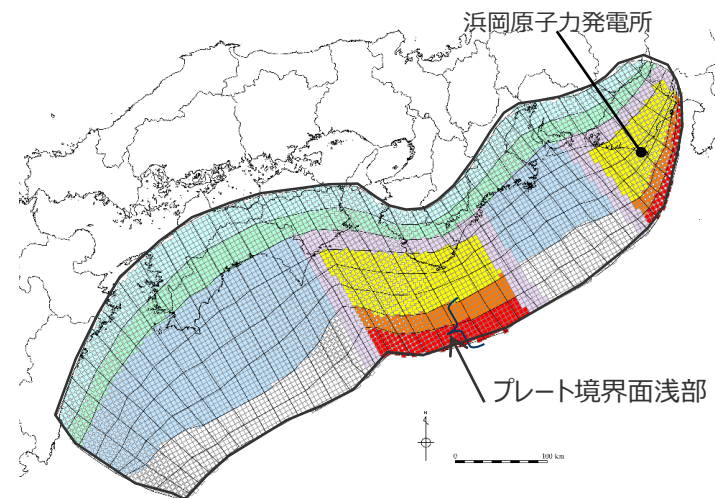
断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.1×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa) ※1	3.0
	平均すべり量 (m) ※2	12.0
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		19.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
	平均すべり量 (m) ※3	27.8
	最大すべり量 (m)	40.8

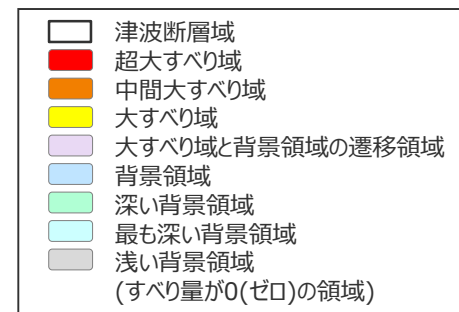
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0mでない領域の断層面積(123,954km²)に基づき算出

※3 すべり量が0mでない領域の断層面積(14,230km²)に基づき算出



検討波源モデルA（プレート境界面浅部）



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1-1 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ（敷地に近い大すべり域の位置：東へ30km、大すべり域間の距離：130km）

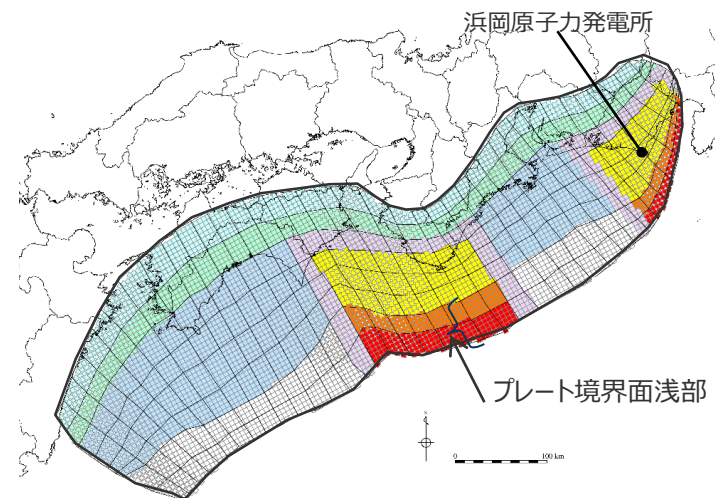
断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.1×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa) ※1	3.0
	平均すべり量 (m) ※2	12.0
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		19.9
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.6×10^{22}
	平均すべり量 (m) ※3	28.1
	最大すべり量 (m)	40.8

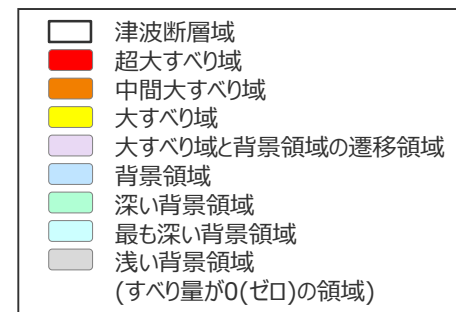
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0mでない領域の断層面積(124,053km²)に基づき算出

※3 すべり量が0mでない領域の断層面積(14,329km²)に基づき算出



検討波源モデルA（プレート境界面浅部）



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

1-1 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ（敷地に近い大すべり域の位置：東へ30km、大すべり域間の距離：140km）

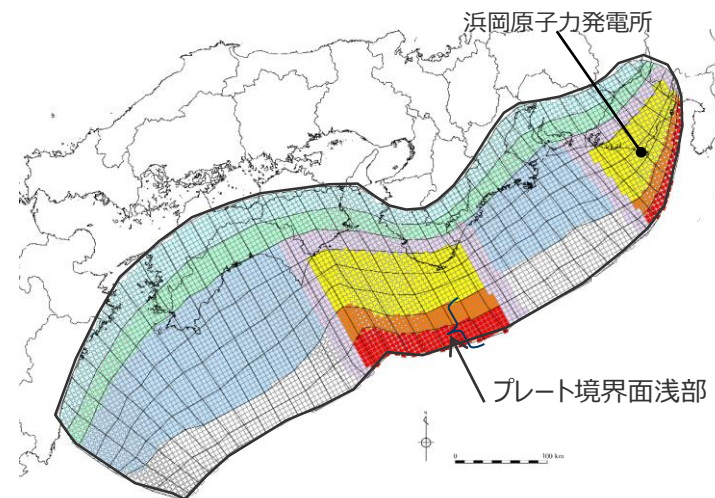
断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa) ※1	3.0
	平均すべり量 (m) ※2	12.1
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		20.4
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
	平均すべり量 (m) ※3	28.4
	最大すべり量 (m)	40.8

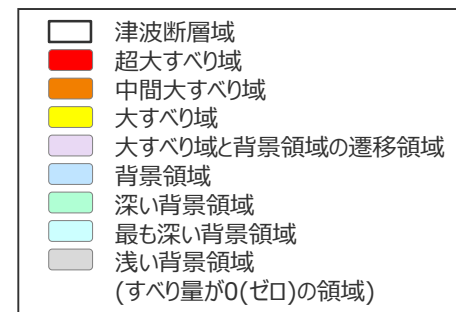
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0mでない領域の断層面積(124,153km²)に基づき算出

※3 すべり量が0mでない領域の断層面積(14,428km²)に基づき算出



検討波源モデルA（プレート境界面浅部）



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

2 検討波源モデルDの詳細

2-1 東海地域の大すべり域が2箇所の場合のパラメータスタディモデルの設定

2 検討波源モデルDの詳細

2-1 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ（敷地に近い大すべり域の位置：東へ10km、大すべり域間の距離：150km）

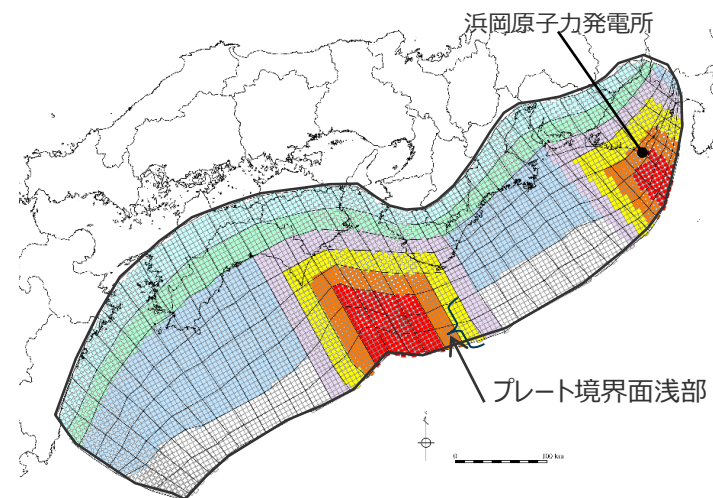
断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.1×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa) ※1	3.0
	平均すべり量 (m) ※2	12.0
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
	平均すべり量 (m) ※3	26.4
	最大すべり量 (m)	40.8

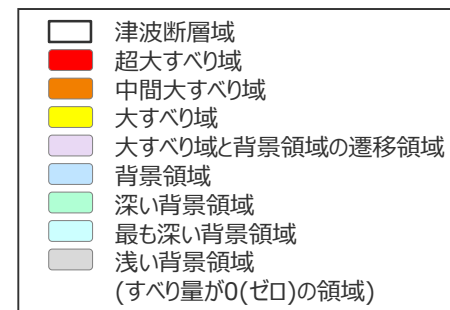
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0mでない領域の断層面積(125,157km²)に基づき算出

※3 すべり量が0mでない領域の断層面積(15,432km²)に基づき算出



検討波源モデルD



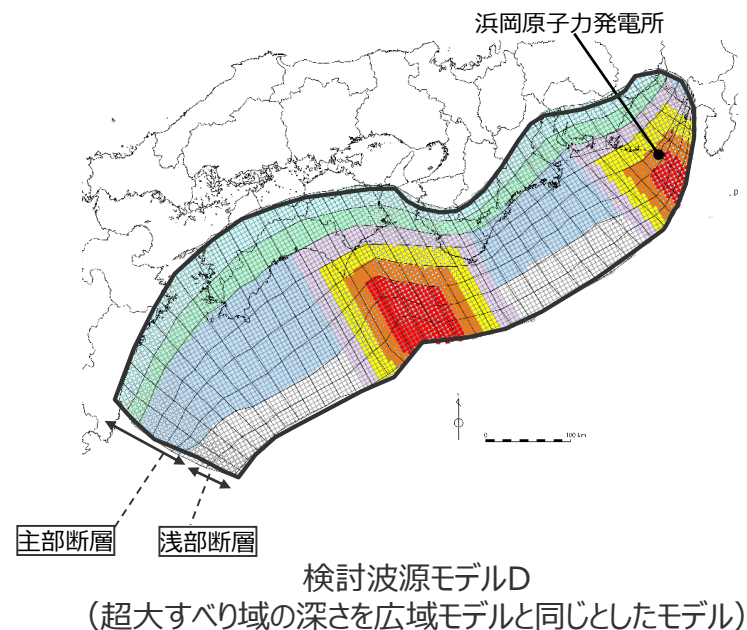
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

2 検討波源モデルDの詳細

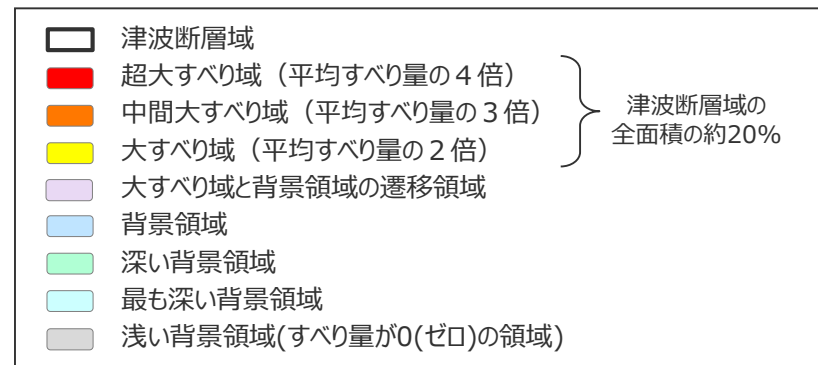
2-1 東海地域の大すべり域が2箇所の場合のパラメータスタディモデルの設定 すべり量分布の設定（敷地に近い大すべり域の位置：東へ10km、大すべり域間の距離：160km）

■検討波源モデルD（超大すべり域の深さを広域モデルと同じとしたモデル）について、大すべり域の位置を10kmずつ移動、大すべり域の距離を10kmずつ変更したケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
40.8	12.0



西 ←

検討波源モデルDの小断層のすべり量分布 (m)

⇒ 東

深度	小断層のすべり量分布 (m)																																																																
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																											
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																											
30km↓	1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.6	2.6	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.6	1.6	1.6	1.6	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.8	0.8			
	2	6.0	6.0	6.0	5.8	5.8	5.8	5.7	5.7	5.7	5.7	5.2	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.8	4.8	4.8	4.6	4.6	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	4.2	4.2	4.2	4.2	3.7	3.7	3.7	3.1	3.1	3.1	3.1	2.5	2.5	2.5	2.5	2.2	2.2	2.2	1.6	1.6				
20km↓	3	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	9.5	13.0	12.5	12.5	12.2	12.2	12.2	11.9	11.9	11.9	11.5	11.5	11.5	11.5	11.5	8.8	8.8	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	8.3	8.3	8.3	7.3	7.3	7.3	7.4	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	6.7	6.7	6.7	6.0	4.6	6.0	4.6	3.2	3.2	
	4	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.7	9.5	15.5	15.0	21.2	20.4	20.4	19.9	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.8	13.5	13.5	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	9.4	9.4	8.3	8.3	8.3	8.3	7.3	11.1	10.6	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	10.9	9.8	7.1	4.9	3.2		
10km↓	5	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	15.5	21.2	21.2	31.8	30.6	30.6	29.9	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	19.4	18.8	13.5	13.5	8.4	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	7.8	7.8	9.4	9.4	8.3	8.3	8.3	12.3	16.3	16.3	24.4	20.7	20.7	20.7	16.4	16.4	10.9	9.8	7.7	4.9	4.4		
	6	12.1	12.1	12.1	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	10.3	10.3	10.3	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	15.6	15.5	21.2	21.2	31.8	30.6	40.8	40.8	39.8	39.8	39.8	39.8	38.8	29.1	29.1	19.4	18.8	13.5	13.5	8.4	8.2	8.2	8.2	8.1	8.1	8.1	7.8	7.8	9.4	9.4	9.4	8.3	13.9	12.3	18.5	16.3	24.4	32.6	27.7	27.7	20.7	16.4	10.9	9.8	7.7	4.9	4.4
0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.6	15.5	21.7	21.2	31.8	30.6	40.8	40.8	40.8	39.8	39.8	39.8	39.8	39.8	29.9	29.1	19.4	19.4	13.9	13.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.9	12.3	18.5	18.5	27.7	27.7	37.0	32.6	27.7	20.7	16.4	10.9	9.8	7.7	4.9	4.4
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.6	15.5	21.7	21.2	31.8	30.6	40.8	40.8	40.8	39.8	39.8	39.8	39.8	29.9	29.1	19.4	19.4	13.9	13.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.9	12.3	18.5	18.5	27.7	27.7	37.0	32.6	27.7	20.7	16.4	10.9	9.8	7.7	4.9	4.4

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。（東西方向はさらにwとeの2つに分割）
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなす（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

2 検討波源モデルDの詳細

2-1 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ（敷地に近い大すべり域の位置：東へ10km、大すべり域間の距離：160km）

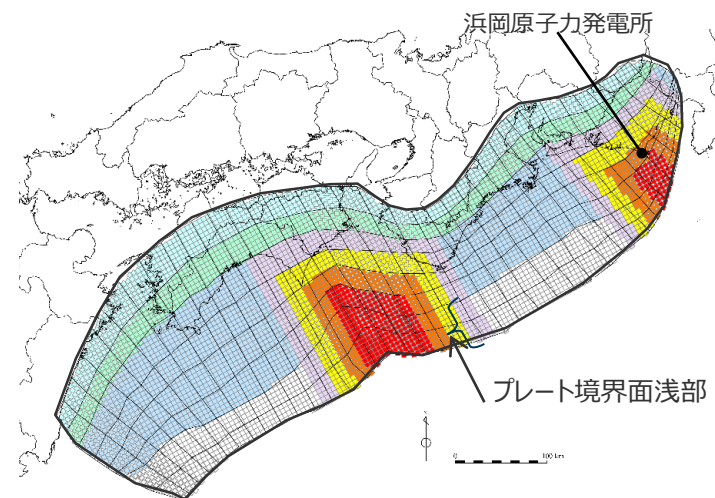
断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力低下量 (MPa) ※1	3.0
	平均すべり量 (m) ※2	12.0
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		40.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
	平均すべり量 (m) ※3	26.9
	最大すべり量 (m)	40.8

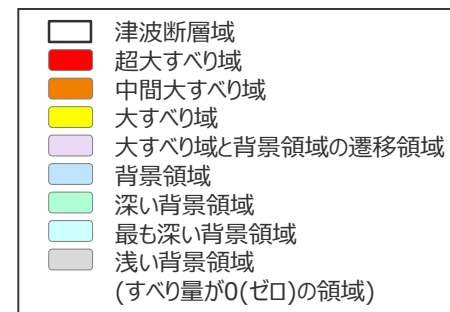
※1 スケーリング則の対象とした平均応力低下量

※2 すべり量が0mでない領域の断層面積(125,157km²)に基づき算出

※3 すべり量が0mでない領域の断層面積(15,432km²)に基づき算出



検討波源モデルD



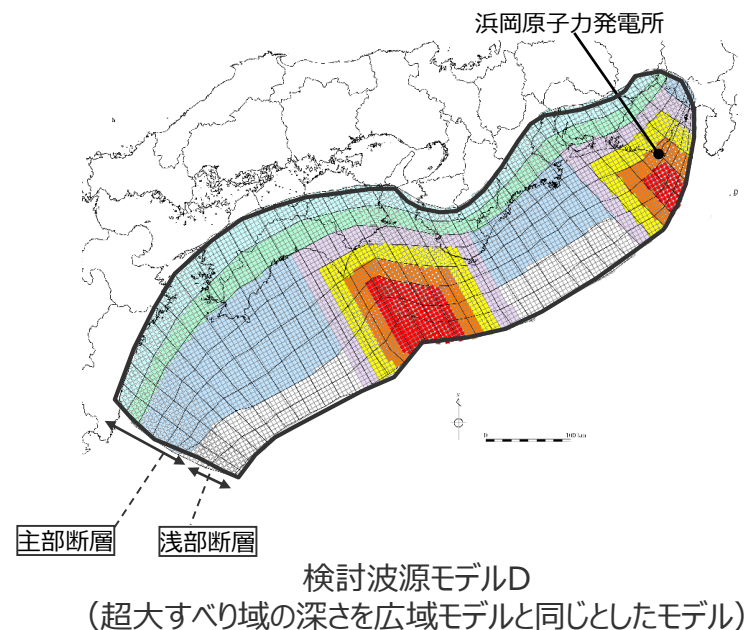
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

2 検討波源モデルDの詳細

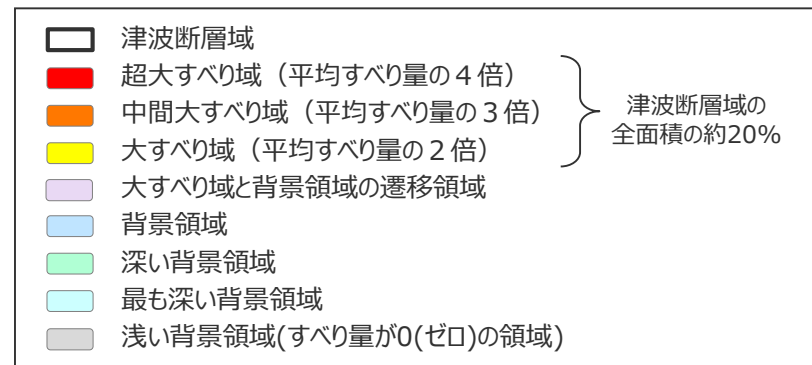
2-1 東海地域の大すべり域が2箇所の場合のパラメータスタディモデルの設定 すべり量分布の設定（敷地に近い大すべり域の位置：基準位置、大すべり域間の距離：150km）

■検討波源モデルD（超大すべり域の深さを広域モデルと同じとしたモデル）について、大すべり域の位置を10kmずつ移動、大すべり域の距離を10kmずつ変更したケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
40.8	12.1



西 ← 検討波源モデルDの小断層のすべり量分布 (m) → 東

深度	検討波源モデルDの小断層のすべり量分布 (m)																																																																	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																												
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																												
30km↓	1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	2.1	2.1	1.8	1.8	1.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.8	0.8							
	2	6.0	6.0	6.0	5.8	5.8	5.8	5.6	5.6	5.6	5.1	5.1	4.9	4.9	4.9	4.8	4.8	4.7	4.7	4.7	4.5	4.5	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	3.8	3.8	4.1	4.1	4.1	4.1	3.6	3.6	3.6	3.1	3.1	3.1	3.1	2.4	2.4	2.4	2.4	2.2	2.2	2.2	2.2	1.6	1.6						
20km↓	3	11.9	11.9	11.9	11.5	11.5	11.5	11.2	11.2	11.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.6	9.6	9.4	12.9	12.5	12.5	12.2	12.2	12.2	11.8	11.8	11.8	11.5	11.5	11.5	11.5	8.8	8.7	8.1	8.1	8.1	8.0	8.0	7.7	7.7	7.7	8.2	8.2	8.2	8.2	7.2	7.2	7.3	7.3	8.5	8.5	8.5	8.5	8.5	6.7	6.7	6.7	4.6	4.6	4.6	4.6	3.1	3.1		
	4	11.9	11.9	11.9	11.5	11.5	11.5	11.2	11.2	11.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.6	9.6	9.4	15.4	14.9	21.2	20.4	20.4	19.9	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.8	13.4	13.4	8.1	8.1	8.1	8.0	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	9.3	9.3	8.2	8.2	8.2	8.2	11.0	11.0	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	10.9	7.0	7.0	3.1	3.1		
10km↓	5	11.9	11.9	11.9	11.5	11.5	11.5	11.2	11.2	11.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.6	9.6	15.4	15.4	21.2	21.2	31.8	30.6	30.6	29.9	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	19.4	18.8	13.9	13.4	8.3	8.1	8.1	8.0	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	7.7	9.3	9.3	8.2	8.2	12.3	12.3	16.3	16.3	24.4	24.4	20.7	20.7	20.7	16.4	16.4	10.9	10.9	7.6	7.6	4.3	4.3
	6	11.9	11.9	11.9	11.5	11.5	11.5	11.2	11.2	11.2	10.2	10.2	10.2	9.9	9.9	9.6	9.6	9.6	15.5	15.4	21.2	21.2	31.8	30.6	40.8	40.8	39.8	39.8	39.8	39.8	38.8	29.1	29.1	19.4	18.8	13.9	13.4	8.3	8.1	8.1	8.1	8.1	8.0	8.0	8.0	7.7	7.7	9.3	9.3	9.3	13.9	13.9	18.5	18.5	24.4	32.6	32.6	27.7	27.7	20.7	20.7	10.9	10.9	7.6	7.6	4.3
0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.5	15.4	21.7	21.2	31.8	30.6	40.8	40.8	40.8	39.8	39.8	39.8	39.8	38.8	29.9	29.1	19.4	19.4	13.9	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.9	13.9	20.8	20.8	27.7	27.7	37.0	32.6	32.6	20.7	20.7	10.9	10.9	7.6	7.6	4.3	4.3
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.5	15.4	21.7	21.2	31.8	30.6	40.8	40.8	40.8	39.8	39.8	39.8	39.8	38.8	29.9	29.1	19.4	19.4	13.9	13.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.9	13.9	20.8	20.8	27.7	27.7	37.0	32.6	32.6	20.7	20.7	10.9	10.9	7.6	7.6	4.3	4.3

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。（東西方向はさらにwとeの2つに分割）
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなす（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

2 検討波源モデルDの詳細

2-1 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ（敷地に近い大すべり域の位置：基準位置、大すべり域間の距離：150km）

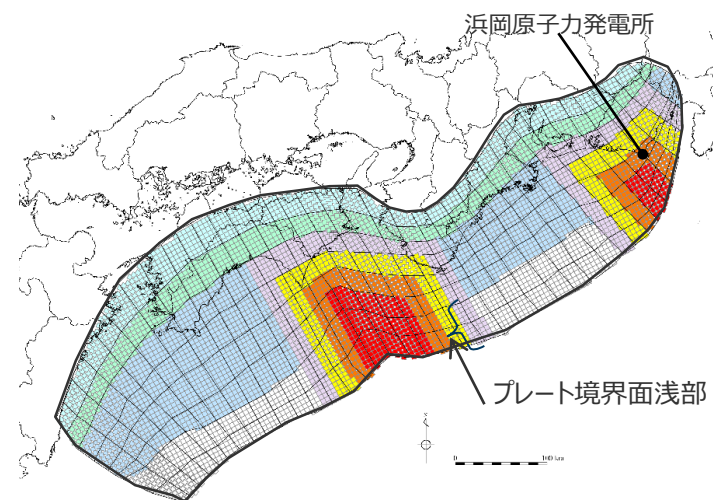
断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa) ※1	3.0
	平均すべり量 (m) ※2	12.1
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		40.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.7×10^{22}
	平均すべり量 (m) ※3	26.8
	最大すべり量 (m)	40.8

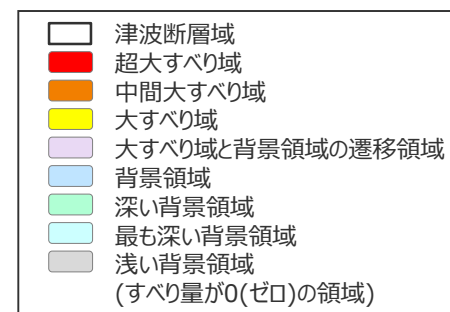
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0mでない領域の断層面積(125,660km²)に基づき算出

※3 すべり量が0mでない領域の断層面積(15,935km²)に基づき算出



検討波源モデルD



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

2 検討波源モデルDの詳細

2-1 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ（敷地に近い大すべり域の位置：西へ10km、大すべり域間の距離：130km）

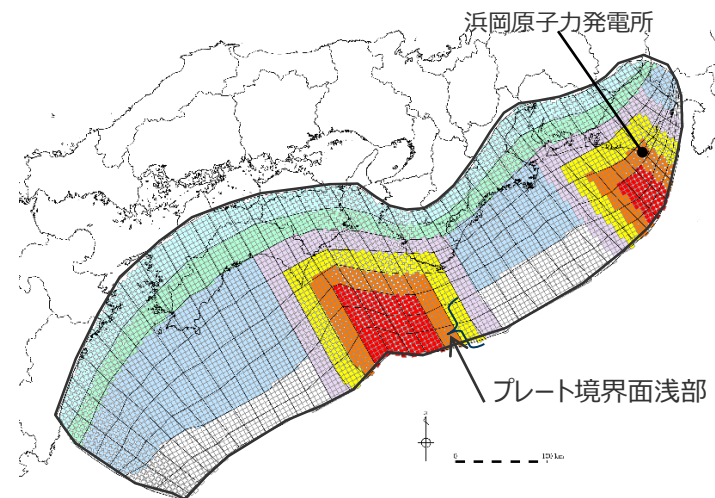
断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.2×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa) ※1	3.0
	平均すべり量 (m) ※2	12.1
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		39.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
	平均すべり量 (m) ※3	26.5
	最大すべり量 (m)	40.8

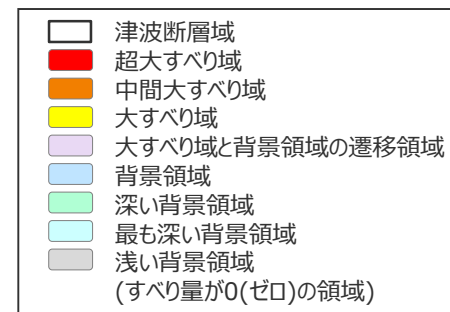
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0mでない領域の断層面積(125,886km²)に基づき算出

※3 すべり量が0mでない領域の断層面積(16,162km²)に基づき算出



検討波源モデルD



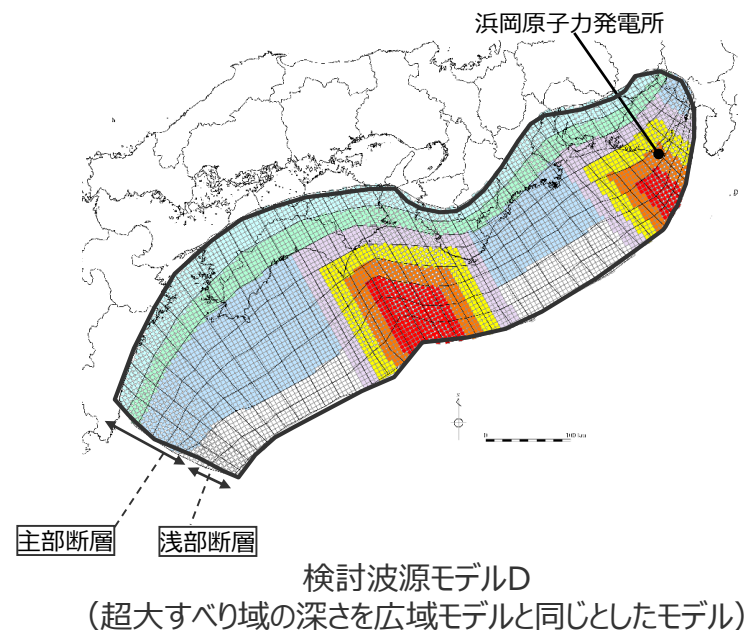
主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

2 検討波源モデルDの詳細

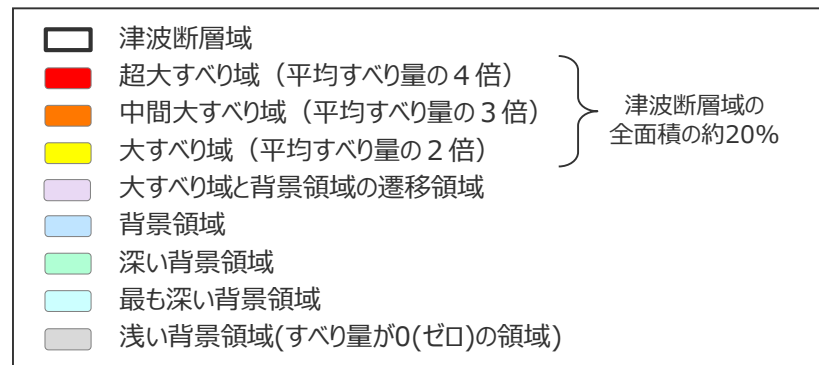
2-1 東海地域の大すべり域が2箇所の場合のパラメータスタディモデルの設定 すべり量分布の設定（敷地に近い大すべり域の位置：西へ10km、大すべり域間の距離：140km）

■検討波源モデルD（超大すべり域の深さを広域モデルと同じとしたモデル）について、大すべり域の位置を10kmずつ移動、大すべり域の距離を10kmずつ変更したケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



検討波源モデルDのすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
40.8	12.1



西 ← 検討波源モデルDの小断層のすべり量分布 (m) → 東

深度	検討波源モデルDの小断層のすべり量分布 (m)																																																																					
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																
30km↓	1	2.9	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.5	2.5	2.4	2.4	2.4	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	1.9	1.9	2.0	2.0	1.8	1.8	1.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.1	1.1	0.8	0.8	0.8	0.8										
	2	5.9	5.9	5.9	5.9	5.7	5.7	5.7	5.7	5.5	5.5	5.5	5.0	4.9	4.9	4.9	4.7	4.7	4.6	4.6	4.6	4.5	4.5	4.3	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	4.0	4.0	4.0	4.0	3.6	3.6	3.6	3.6	3.0	3.0	3.0	3.0	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.1	2.1	2.1	1.5	1.5					
20km↓	3	11.7	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	10.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.5	9.5	9.5	9.3	12.9	12.4	12.4	12.4	12.1	12.1	12.1	11.8	11.8	11.8	11.4	11.4	11.4	11.4	11.4	8.7	8.7	7.9	7.9	7.9	7.8	7.8	7.8	7.8	7.6	7.6	8.1	8.1	8.1	8.1	7.1	9.9	7.3	9.9	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	8.4	6.7	6.7	6.7	6.7	4.6	3.2	4.6	4.3	3.1	3.1
	4	11.7	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	10.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.5	9.5	9.3	15.3	14.8	21.2	20.4	19.9	19.9	19.9	19.4	19.4	19.4	19.4	19.4	18.8	18.8	18.8	13.3	7.9	7.9	7.9	7.8	7.8	7.8	7.8	7.6	7.6	9.1	9.1	8.1	8.1	8.1	12.2	11.0	16.3	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	13.8	10.9	10.9	7.6	7.0	4.3	3.1	3.1					
10km↓	5	11.7	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	10.0	10.0	10.0	9.7	9.5	9.5	9.5	15.3	21.2	21.2	31.8	30.6	30.6	29.9	29.9	29.9	29.1	29.1	29.1	19.4	18.8	13.8	13.3	8.2	7.9	7.9	7.8	7.8	7.8	7.8	7.6	7.6	7.6	7.6	9.1	9.1	8.1	8.1	8.1	12.2	18.5	16.3	24.4	24.4	24.4	20.7	20.7	20.7	16.4	10.9	7.6	4.3	4.3	4.3					
	6	11.7	11.7	11.7	11.7	11.4	11.4	11.4	11.1	11.1	11.1	10.0	10.0	10.0	9.7	9.7	9.7	9.5	15.4	21.2	21.2	31.8	30.6	40.8	39.6	39.6	39.6	39.6	39.6	38.8	29.1	29.1	19.4	18.8	13.8	13.3	8.2	7.9	7.9	7.9	7.8	7.8	7.8	7.6	7.6	7.6	9.1	9.1	9.1	13.8	13.8	18.5	18.5	27.7	24.4	32.6	32.6	27.7	20.7	20.7	13.8	10.9	9.1	7.6	4.3	4.3				
0km↓	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	21.2	21.2	31.8	30.6	40.8	40.8	40.8	40.8	39.6	39.6	39.6	39.6	39.6	39.6	29.9	29.1	19.4	19.4	13.8	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	13.8	20.8	18.5	27.7	27.7	37.0	37.0	32.6	24.4	20.7	13.8	10.9	9.1	7.6	0.0	0.0			
	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	21.2	21.2	31.8	30.6	40.8	40.8	40.8	40.8	39.6	39.6	39.6	39.6	39.6	29.9	29.1	19.4	19.4	13.8	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.8	13.8	20.8	18.5	27.7	27.7	37.0	37.0	32.6	24.4	20.7	13.8	10.9	9.1	7.6	0.0	0.0			

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。（東西方向はさらにwとeの2つに分割）
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなす（内閣府(2012)）とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

2 検討波源モデルDの詳細

2-1 東海地域の大すべり域が2箇所のケースのパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ（敷地に近い大すべり域の位置：西へ10km、大すべり域間の距離：140km）

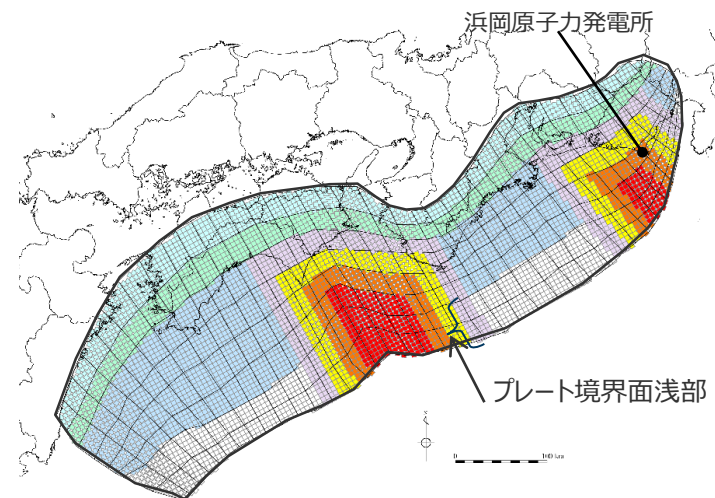
断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	6.3×10^{22}
	Mw	9.1
	平均応力降下量 (MPa) ※1	3.0
	平均すべり量 (m) ※2	12.1
	最大すべり量 (m)	40.8
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
	主部断層	面積 (km ²)
地震モーメント (Nm)		4.5×10^{22}
平均すべり量 (m)		9.9
最大すべり量 (m)		40.8
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	1.8×10^{22}
	平均すべり量 (m) ※3	27.0
	最大すべり量 (m)	40.8

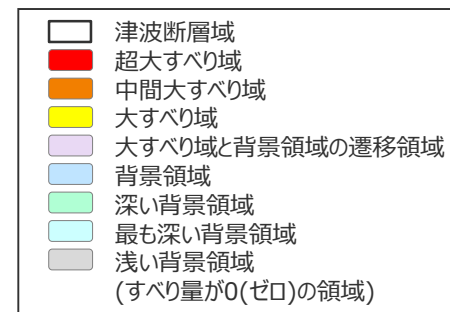
※1 スケーリング則の対象とした平均応力降下量

※2 すべり量が0mでない領域の断層面積(125,886km²)に基づき算出

※3 すべり量が0mでない領域の断層面積(16,162km²)に基づき算出



検討波源モデルD



主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s) のパラメータスタディモデルの設定

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

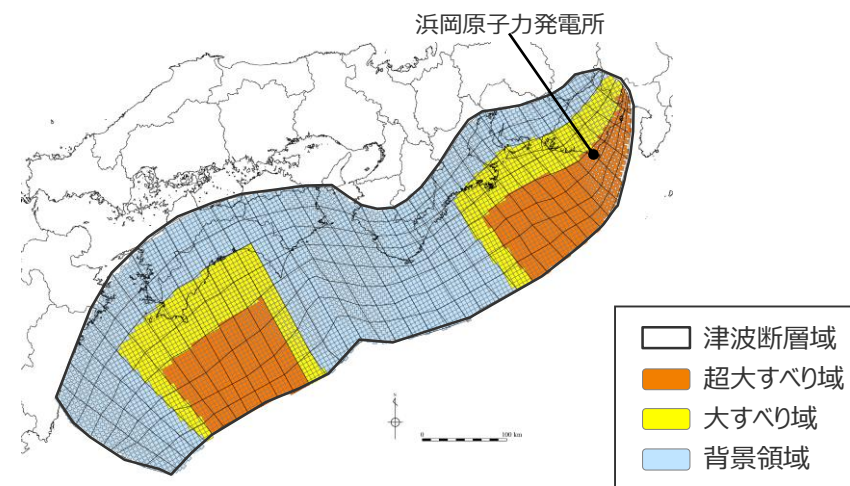
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 東へ60km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	7.7×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	13.0
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.2×10^{22}
	平均すべり量 (m)	11.6
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	17.7
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

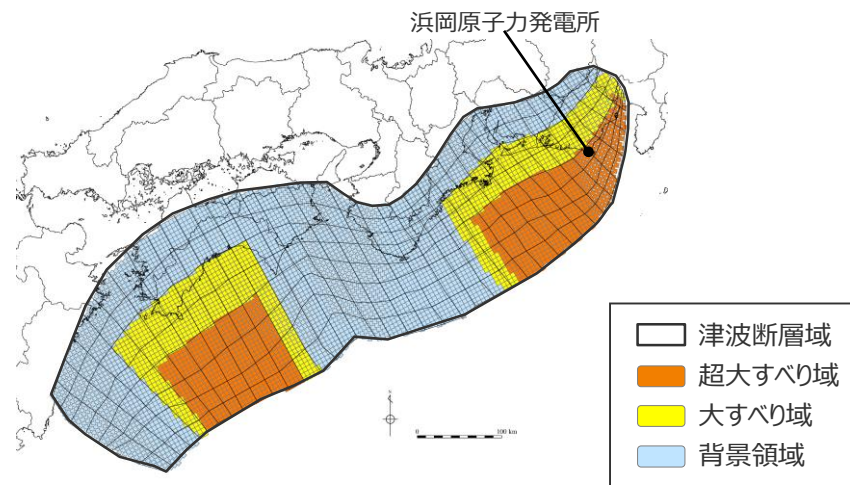
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 東へ50km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	7.8×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	13.2
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	11.7
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	18.2
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

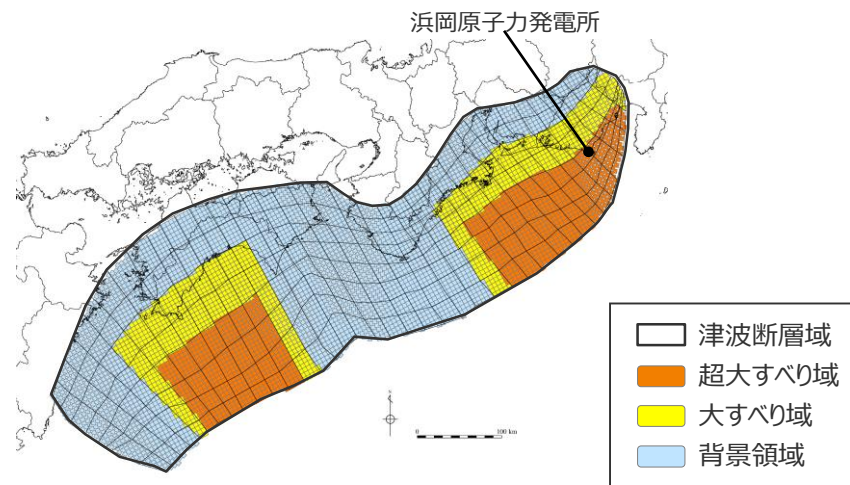
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 東へ40km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.0×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	13.5
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.3×10^{22}
	平均すべり量 (m)	11.8
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.7×10^{22}
	平均すべり量 (m)	18.7
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

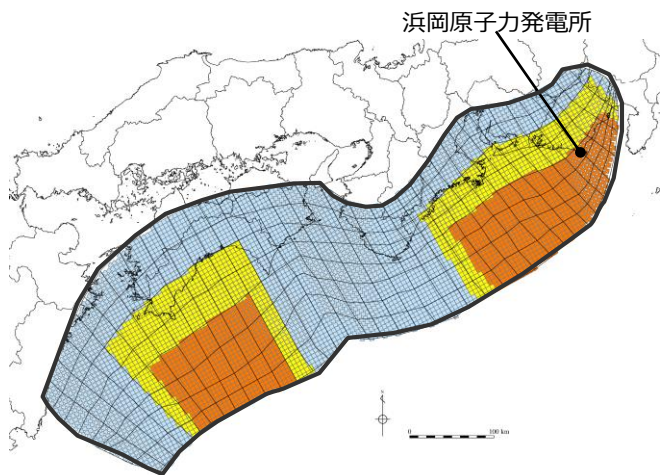
主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①(Δσ3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 すべり量分布の設定 (大すべり域の位置 : 東へ30km)

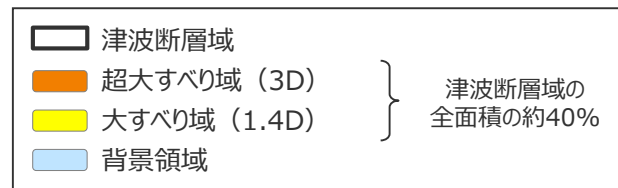
■ 日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.1MPa, RT150s) について、大すべり域の位置を東へ30kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル①

日本海溝の津波評価手法モデル①のすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
44.6	13.7



・D : 平均すべり量

西 ←

日本海溝の津波評価手法モデル①のすべり量分布 (m)

⇒ 東

深度	すべり量分布 (m)																																																																												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38																																							
40km↓	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e	w	e																																							
30km↓	1	5.2	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.5	4.5	4.3	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.6	3.6	3.6	3.2	3.2	3.2	3.2	2.7	2.7	2.7	2.7	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.9	1.9	1.9	1.9	1.4	1.4	1.4	1.4							
20km↓	2	5.2	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	5.0	4.9	4.9	4.9	4.5	4.5	4.3	4.3	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.4	3.6	3.6	3.6	3.6	3.2	3.2	3.2	3.2	2.7	2.7	2.7	2.7	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	1.9	1.9	1.9	1.9	1.4	1.4	1.4	1.4								
10km↓	3	5.2	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	20.8	20.8	20.8	20.8	18.9	18.9	18.9	18.3	18.3	17.8	17.8	17.8	17.4	17.4	17.4	16.8	16.8	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	14.7	14.2	14.2	14.2	14.2	15.2	15.2	15.2	13.4	13.4	13.4	11.4	11.4	11.4	11.4	11.4	11.4	11.4	9.0	9.0	9.0	9.0	8.0	8.0	8.0	8.0	5.8	1.4					
5km↓	4	5.2	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	20.8	20.8	20.8	20.8	18.9	18.9	18.9	18.3	18.3	18.3	17.8	17.8	17.4	17.4	17.4	16.8	16.8	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	14.7	14.7	14.7	14.2	14.2	14.2	15.2	15.2	15.2	13.4	13.4	13.4	11.4	11.4	11.4	11.4	11.4	11.4	9.0	9.0	9.0	9.0	8.0	8.0	8.0	8.0	5.8	1.4					
0km↓	5	5.2	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	20.8	20.8	44.6	44.6	44.6	44.6	44.6	40.5	40.5	40.5	40.5	39.2	39.2	39.2	38.2	38.2	38.2	38.2	17.4	17.4	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	14.9	14.7	31.6	31.6	31.6	30.5	30.5	30.5	30.5	30.5	30.5	36.7	36.7	36.7	32.6	32.6	32.6	32.6	28.7	28.7	28.7	28.7	24.4	24.4	24.4	24.4	24.4	19.3	19.3	19.3	17.2	8.0	8.0	1.9
0km↓	6	5.2	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	20.8	20.8	44.6	44.6	44.6	44.6	44.6	40.5	40.5	40.5	40.5	39.2	39.2	39.2	38.2	38.2	38.2	17.4	17.4	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	14.9	14.7	31.6	31.6	31.6	30.5	30.5	30.5	30.5	30.5	30.5	36.7	36.7	36.7	32.6	32.6	32.6	32.6	28.7	28.7	28.7	28.7	24.4	24.4	24.4	24.4	24.4	19.3	19.3	19.3	17.2	8.0	8.0	1.9	
0km↓	7	5.2	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	20.8	20.8	44.6	44.6	44.6	44.6	44.6	40.5	40.5	40.5	40.5	39.2	39.2	39.2	38.2	38.2	38.2	17.8	17.8	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	14.9	14.9	32.0	31.6	31.6	30.5	30.5	30.5	30.5	30.5	30.5	36.7	36.7	36.7	32.6	32.6	32.6	32.6	28.7	28.7	28.7	28.7	24.4	24.4	24.4	24.4	19.3	19.3	19.3	17.2	8.0	8.0	1.9		
0km↓	8	5.2	5.2	5.2	5.0	5.0	5.0	21.4	21.4	44.6	44.6	44.6	44.6	44.6	40.5	40.5	40.5	40.5	39.2	39.2	39.2	38.2	38.2	38.2	17.8	17.8	4.1	4.1	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	14.9	14.9	32.0	31.6	31.6	30.5	30.5	30.5	30.5	30.5	30.5	36.7	36.7	36.7	32.6	32.6	32.6	32.6	28.7	28.7	28.7	28.7	24.4	24.4	24.4	24.4	19.3	19.3	19.3	17.2	8.0	8.0	1.9		

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。(東西方向はさらにwとeの2つに分割)
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなす(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

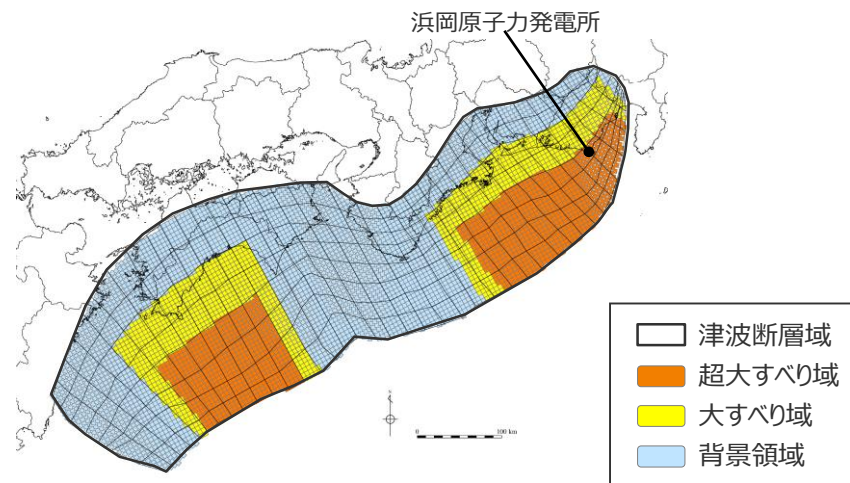
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 東へ30km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.1×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	13.7
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	11.9
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.7×10^{22}
	平均すべり量 (m)	19.1
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

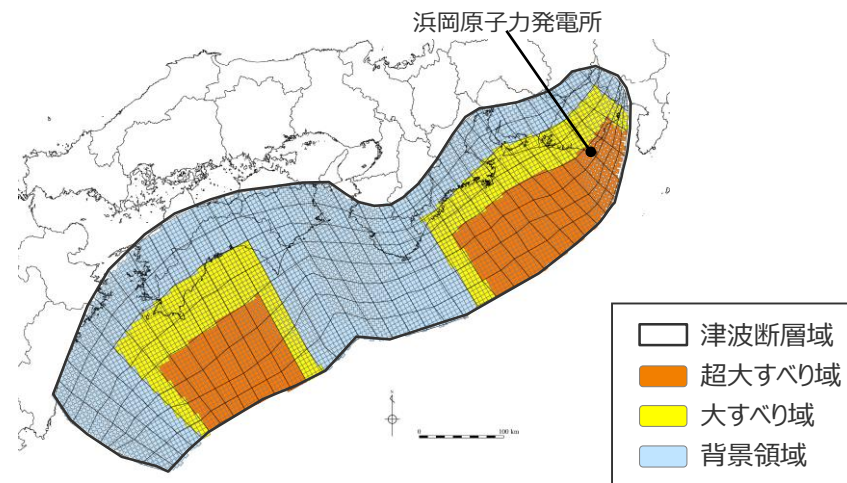
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 東へ20km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.2×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	13.9
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.4×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.1
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.8×10^{22}
	平均すべり量 (m)	19.6
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

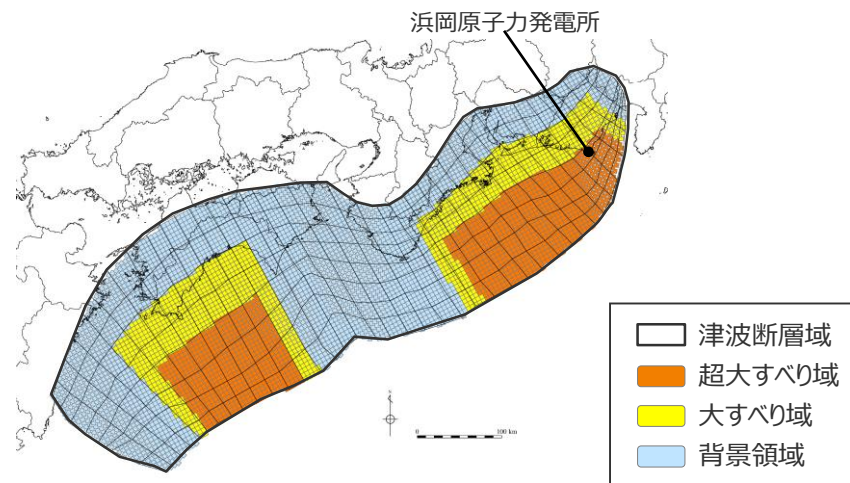
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 東へ10km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.3×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	14.0
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.1
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.8×10^{22}
	平均すべり量 (m)	20.0
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

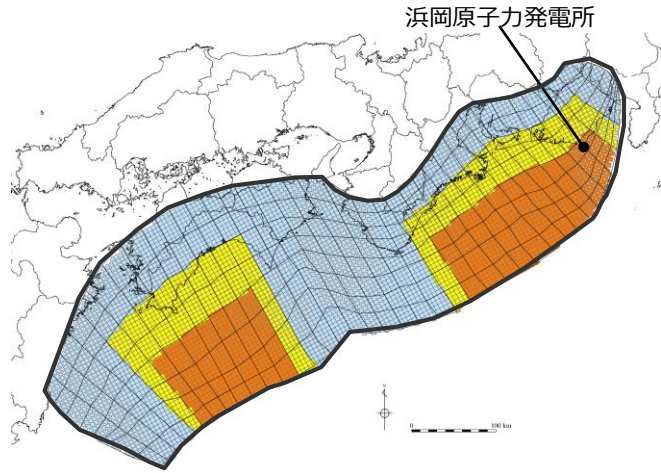
主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①(Δσ3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 すべり量分布の設定 (大すべり域の位置：基準位置)

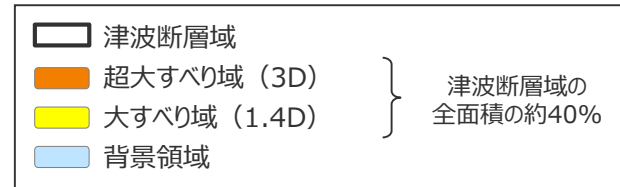
■ 日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.1MPa, RT150s) について、大すべり域の位置を基準位置としたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル①

日本海溝の津波評価手法モデル①のすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
44.6	14.2



・D：平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル①のすべり量分布 (m)

		西 ←																																				→ 東			
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
		30km↓	1	5.2	5.2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.5	4.3	4.2	4.1	4.1	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.6	3.2	3.2	2.7	2.7	2.1	2.1	2.1	2.1	1.9	1.9	1.4	1.4
	20km↓	2	5.2	5.2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.5	4.3	4.3	4.2	4.1	4.1	4.0	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.2	3.2	2.7	2.7	2.1	2.1	2.1	2.1	1.9	1.9	1.4	1.4
		3	5.2	5.2	5.0	5.0	20.8	20.8	18.9	18.9	18.3	17.8	17.8	17.4	16.8	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	14.9	14.7	14.2	14.2	15.2	15.2	13.4	13.4	11.4	11.4	11.4	11.4	9.0	9.0	8.0	1.9
	10km↓	4	5.2	5.2	5.0	5.0	20.8	20.8	18.9	18.9	18.3	18.3	17.8	17.4	17.4	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.5	14.9	14.7	14.7	14.2	17.1	15.2	15.2	13.4	11.4	11.4	11.4	11.4	9.0	9.0	1.9	1.4	
		5	5.2	5.2	5.0	5.0	20.8	44.6	44.6	40.5	40.5	39.2	38.2	38.2	17.4	4.1	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	14.9	31.6	31.6	30.5	30.5	36.7	32.6	32.6	28.7	28.7	24.4	24.4	19.3	9.0	1.9	1.9	
	0km↓	6	5.2	5.2	5.0	5.0	20.8	44.6	44.6	40.5	40.5	39.2	39.2	38.2	17.4	4.1	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.6	3.6	14.9	32.0	31.6	31.6	30.5	36.7	36.7	32.6	32.6	28.7	28.7	24.4	24.4	9.0	1.9	1.9	
		7	5.2	5.2	5.0	5.0	20.8	44.6	44.6	40.5	40.5	39.2	39.2	17.8	4.1	4.0	4.0	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.6	14.9	32.0	31.6	31.6	30.5	30.5	36.7	36.7	32.6	32.6	28.7	28.7	24.4	9.0	1.9	1.9		
	8	5.2	5.2	5.0	5.0	21.4	44.6	44.6	44.6	40.5	40.5	39.2	39.2	17.8	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.6	15.4	32.0	32.0	31.6	30.5	30.5	36.7	36.7	36.7	32.6	32.6	28.7	24.4	9.0	1.9	1.9		

- すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
- 駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10kmの位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなす(内閣府(2012))とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

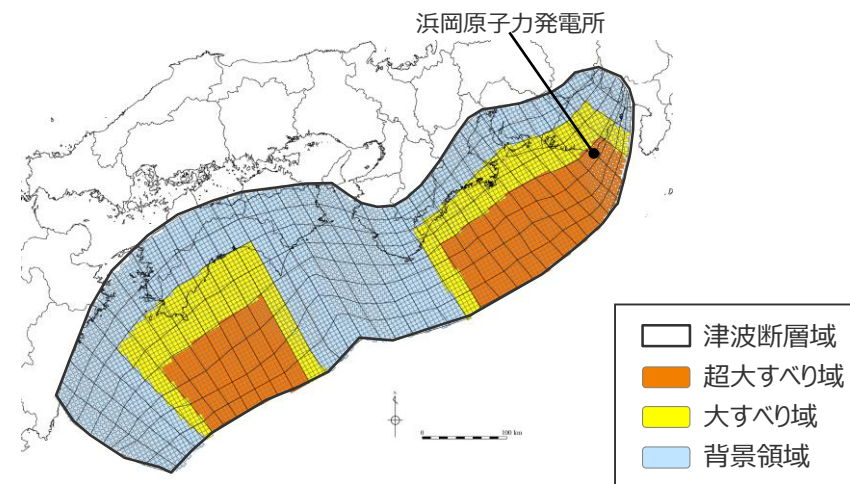
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置：基準位置)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.4×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	14.2
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.2
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.9×10^{22}
	平均すべり量 (m)	20.3
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

主部断層：深さ10km以深の断層

浅部断層：深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

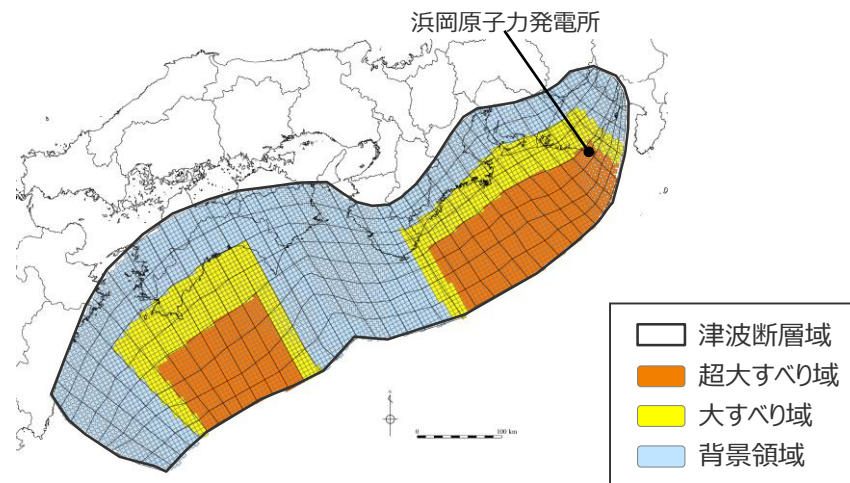
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 西へ10km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.5×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	14.3
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.3
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	2.9×10^{22}
	平均すべり量 (m)	20.7
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

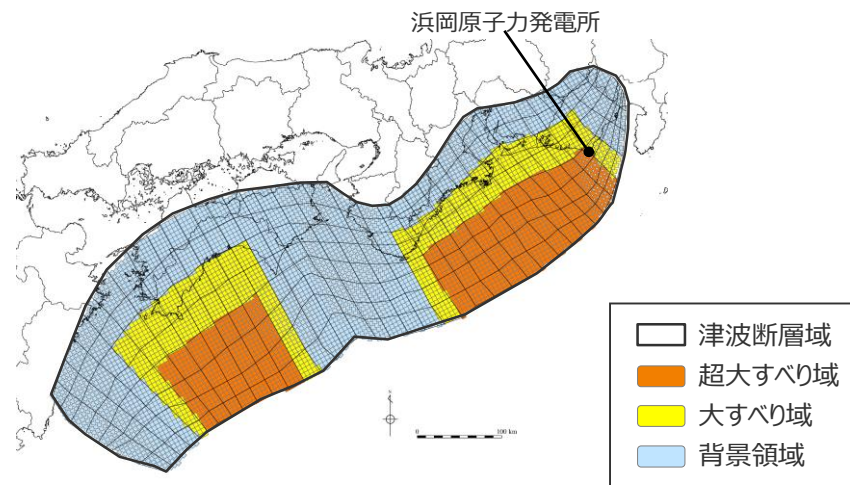
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 西へ20km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	14.5
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.4
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	21.0
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

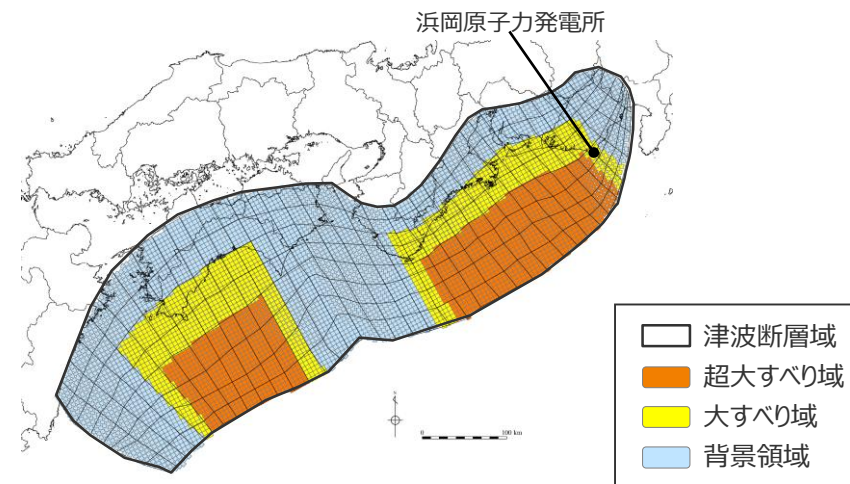
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 西へ30km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	14.6
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.5
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	21.3
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

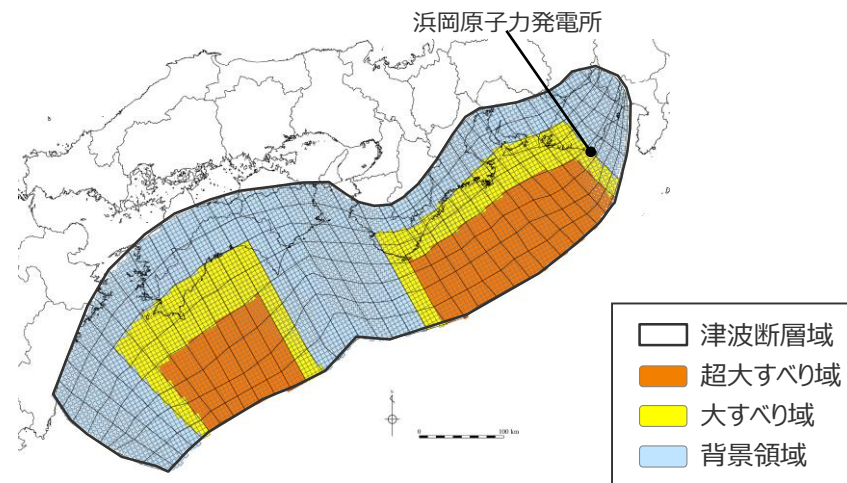
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 西へ40km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.7×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	14.7
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.5
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	21.6
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

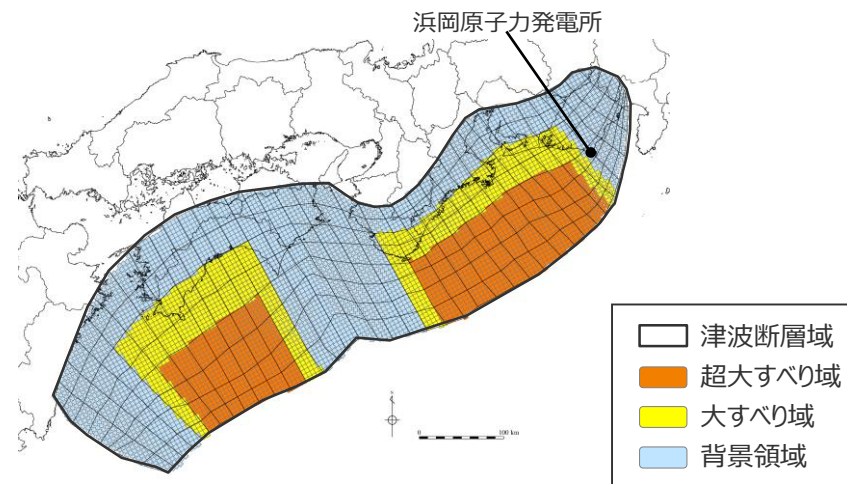
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 西へ50km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	14.6
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.4
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	21.4
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

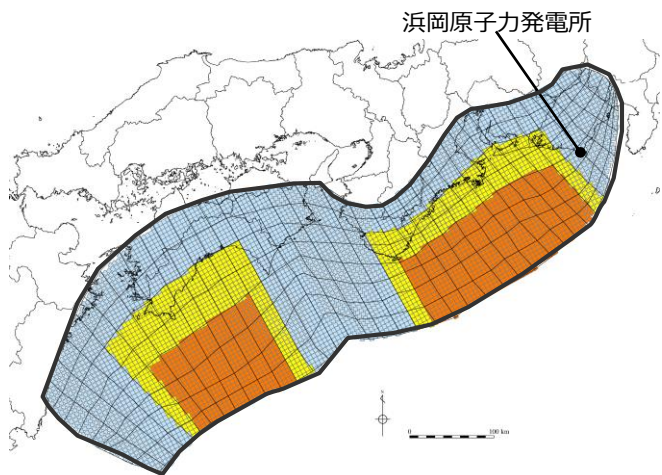
主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①(Δσ3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定 すべり量分布の設定 (大すべり域の位置：西へ60km)

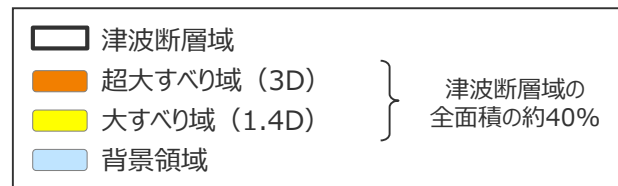
■ 日本海溝の津波評価手法モデル① (Δσ3.1MPa, RT150s) について、大すべり域の位置を西へ60kmとしたケースの各小断層のすべり量分布は以下のとおり。



日本海溝の津波評価手法モデル①

日本海溝の津波評価手法モデル①のすべり量

最大すべり量(m)	平均すべり量(m)
44.6	14.4



・D：平均すべり量

日本海溝の津波評価手法モデル①のすべり量分布 (m)

		西 ←																																						→ 東	
陸側 ⇄ 海溝軸側 ⇄	深度40km↓	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38		
	30km↓	1	5.2	5.2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.5	4.3	4.2	4.1	4.1	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.6	3.2	3.2	2.7	2.7	2.1	2.1	2.1	2.1	1.9	1.9	1.4	1.4	
	20km↓	2	5.2	5.2	5.0	5.0	4.9	4.9	4.5	4.3	4.3	4.2	4.1	4.1	4.0	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	3.6	3.6	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4	3.6	3.6	3.2	3.2	2.7	2.7	2.1	2.1	2.1	2.1	1.9	1.9	1.4	
		3	5.2	5.2	5.0	5.0	20.8	20.8	18.9	18.9	18.3	17.8	17.8	17.4	16.8	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.6	3.6	15.4	14.9	14.9	14.7	14.2	14.2	15.2	15.2	13.4	13.4	11.4	11.4	11.4	2.1	2.1	1.9	1.9	1.4	
	10km↓	4	5.2	5.2	5.0	5.0	20.8	20.8	18.9	18.9	18.3	18.3	17.8	17.4	17.4	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	3.6	15.4	14.9	14.9	14.7	14.7	14.2	17.1	15.2	15.2	13.4	11.4	11.4	11.4	2.7	2.1	2.1	1.9	1.4	
		5	5.2	5.2	5.0	5.0	20.8	44.6	44.6	40.5	40.5	39.2	38.2	38.2	17.4	4.1	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8	15.4	33.1	32.0	31.6	31.6	30.5	30.5	36.7	32.6	32.6	28.7	28.7	11.4	2.7	2.1	2.1	1.9	1.9	
	0km↓	6	5.2	5.2	5.0	5.0	20.8	44.6	44.6	40.5	40.5	39.2	39.2	38.2	17.4	4.1	4.0	3.9	3.9	3.8	3.8	15.4	33.1	32.0	32.0	31.6	31.6	30.5	36.7	36.7	32.6	32.6	28.7	13.4	2.7	2.7	2.1	1.9	1.9		
		7	5.2	5.2	5.0	5.0	20.8	44.6	44.6	40.5	40.5	40.5	39.2	39.2	17.8	4.1	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	15.9	33.1	32.0	32.0	31.6	31.6	30.5	30.5	36.7	36.7	32.6	32.6	13.4	3.2	2.7	2.1	1.9	1.9		
	8	5.2	5.2	5.0	5.0	21.4	44.6	44.6	44.6	40.5	40.5	39.2	39.2	17.8	4.1	4.0	4.0	4.0	3.9	3.9	3.8	15.9	33.1	33.1	32.0	32.0	31.6	30.5	30.5	36.7	36.7	36.7	32.6	15.2	3.2	2.7	2.1	1.9	1.9		

・すべり量分布の番号は南海トラフのプレート境界の全領域を約20km四方に分割して、西側から東側に順に1から38まで、陸側から海溝軸側に1から8までとした。
 ・駿河湾内のトラフ軸付近の領域については、他の領域に比べ、プレート境界面の深さ10km の位置がトラフ軸に近くなり、また、トラフ軸沿いの津波断層モデルの面積も狭くなることから、この領域は分岐断層的な運動をする領域とみなす (内閣府(2012)) とされるが、敷地への影響の観点から大すべり域のすべり量ではなく超大すべり域のすべり量を設定した。

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

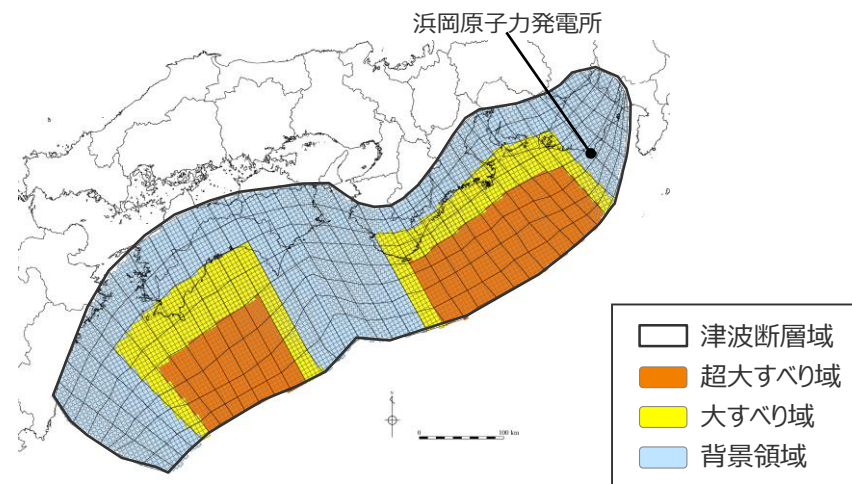
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 西へ60km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	14.4
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.5×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.3
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	21.2
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

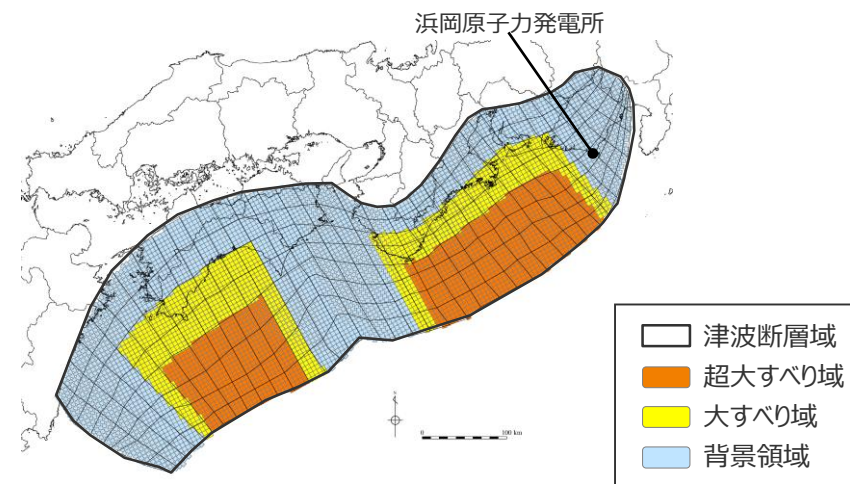
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 西へ70km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	14.5
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.4
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.0×10^{22}
	平均すべり量 (m)	21.4
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層

3 日本海溝の津波評価手法モデル①の詳細

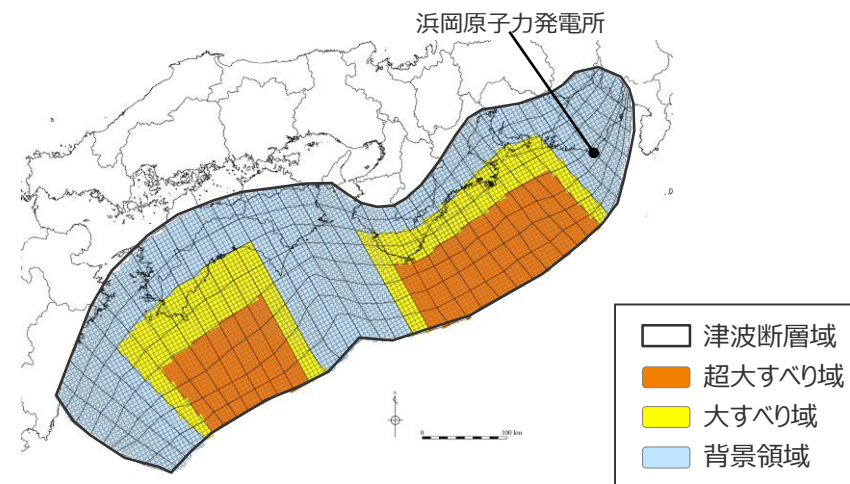
3-1 日本海溝の津波評価手法モデル①($\Delta\sigma$ 3.1MPa, RT150s)のパラメータスタディモデルの設定

断層パラメータ (大すべり域の位置 : 西へ80km)

断層パラメータ

項目		設定値
津波断層域全体	面積 (km ²)	144,379
	地震モーメント (Nm)	8.6×10^{22}
	Mw	9.2
	平均応力降下量 ※(MPa)	3.1
	平均すべり量 (m)	14.6
	最大すべり量 (m)	44.6
	剛性率 (N/m ²)	4.1×10^{10}
	破壊伝播速度 (km/s)	2.0
	ライズタイム (s)	150
主部断層	面積 (km ²)	109,725
	地震モーメント (Nm)	5.6×10^{22}
	平均すべり量 (m)	12.4
	最大すべり量 (m)	44.6
浅部断層	面積 (km ²)	34,655
	地震モーメント (Nm)	3.1×10^{22}
	平均すべり量 (m)	21.6
	最大すべり量 (m)	44.6

※ スケーリング則の対象とした平均応力降下量



日本海溝の津波評価手法モデル①

主部断層 : 深さ10km以深の断層

浅部断層 : 深さ10km以浅の断層



中部電力